

## マツズアカシムシ

マツ属の若い枝や緑の松ぼっくりに潜るイモムシ（幼虫）。最大長約12mm。頭とそのすぐ後の部分は淡い茶色。体は淡い黄土色でやや赤みを帯びる。

本州などではマツのシンクイムシの中で最も多いといわれる。北海道では道南に分布するが被害実態は不明。

【学名】 *Petrova cristata* 【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道（道南）, 本州, 四国, 九州。

### 【特徴】

マツ属に寄生するシンクイムシ類（幼虫）の区別点

種和名	最大約	特徴
ツマクロテンヒメハマキ	12mm	体はやや太く、黄白色で灰色や赤色味を帯びる。
マツツマアカシムシ	9mm	体が太く、頭が小さくみえる。赤茶色。マツ属だけに寄生。
マツアカシムシ	15mm	体が太く、頭が小さくみえる。赤茶色。マツ属だけに寄生。道南に分布。
マツトビマダラシムシ	14mm	体はやや太く、赤茶色で下側が淡い。
マツズアカシムシ	12mm	体はやや太く、淡い黄土色、背中が赤みがかかる。マツ属だけに寄生。道南に分布。
マツシンマダラメイガ	25mm	体は細長く、灰色、細い縦縞が多数ある。

ツマクロテンヒメハマキとよく似ている。頭部とそのすぐ後（前胸背楯）はマツズアカシムシでは同色だが、ツマクロテンヒメハマキでは前胸背楯が頭部より暗い。

### 【生態】

宿主：マツ属の当年生枝と若い球果。

北海道内での生活史はよく分かっていない。東北では年1～2世代。越冬態は蛹または幼虫。枝や球果の中で白い繭を作って蛹になる。

### 【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22 : 85-129. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツズアカシンムシ [hamaki/matuzua/  
kaisetu.htm](http://hamaki/matuzua/kaisetu.htm)

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/23.